ウルリム
響
울림
聖公会生野センター機関誌
第22号
2002年2月10日発行
題字：康秀峰
E-mail:ikuno.po@nskk.org　URL http://www.nskk.org/province/ikuno

鉄冷えの町・釜石から見えてきたもの

越山健蔵

釜石は、日本経済の象徴とも言える鉄の町として栄え、1993年に操業が中止されるまで、岩手県第２の都市として人口が10万を超える活気に満ちた町だった。釜石鉱山は、1857年南部藩によって日本初の洋式高炉として出銑に成功した。現在の新日鉄の前身である日鉄鉱業は1925年に創業を開始し、日本が戦争に突入すると同時に戦争の拡大とともに軍需用の鉄が重要視され、大きく発展する事となった。それに伴って人手不足から多くの中国人、朝鮮人が徴用され、当初は募集によってであったが、戦争末期には強制連行によって徴用された。未だその戦後補償について問題を引きずっている。

釜石市には、郷土資料館というのがあるが、何故か中国やオランダなどの外国人の鉱山での記録は残されているが、朝鮮人の記述については全く残されていない。敗戦間際に軍の命令か会社の命令か分からないが、全て焼却されてしまった。今、釜石には、中国人の強制連行の記念碑は、町を見下ろす高台に日中友好記念碑として立派なものが建てられている。しかし、朝鮮人については全く話題にものぼらない。また、秋田の花岡鉱山についても、宮城の細倉鉱山についても朝鮮人に関する記録は全くと言っていいほど残されていない。只、米軍の艦砲射撃で27名の朝鮮人が亡くなったという記録が唯一のもので、鉱山での400名近い人々の消息は、現在でも殆どつかめていない。一部無縁仏となった13名の遺骨は、釜石の正福寺にあったものが今は釜石ではなく、盛岡近郊の滝沢村に建立された朝鮮人強制連行記念碑の中で眠っている。

釜石鉱山跡をバックに

釜石は市民の生活の全てが何らかの形で釜石鉱山と関ってきて、今でも新日鉄城下町と言われている。普段人々は勿論その事を意識しているわけではないが、過日、韓国の方々が見えてその鉱山の現場を見せて欲しいと申し出た時に頑なに拒否された現実が未だ残っている。未だわだかまりから解放されていないのが実状である。一見平和に見える市民生活も、その奥に潜む闇の部分は、鉱山の閉山とともに葬り去られようとしている。

余談であるが、鉱山時代にあれほど鉱山の男を悩ました涌き水が今は仙人秘水となって市民に愛されている。又鉱山の汚水で魚一匹住まなかった河川に鮎やヤマメが生き生きと泳いでいる姿を目にすると平和な時代を感じさせる。しかし、歴史は決して消え去ることなく当時を知る古老たちの胸のつかえとしていつまでも記録されていくことであろう。

（こしやま・けんぞう　東北教区司祭　釜石神愛教会牧師）

もくじ

1　鉄冷えの町・釜石から見えてきたもの……越山 健蔵
2　時のしるし　God bless America？……西原 廉太
3　多民族・多文化共生のすすめ①　はじめのはじめの第一歩……金 光 敏
4　韓国市民の眼①　「新しい歴史教科書をつくる会」に教えられたもの……河 棕 文
5　こんな本あります　本から「在日コリアン」を考える⑧……高 二 三
6　「ことばを学ぶ」ということの素晴らしさ……鄭 恵 先
7　変化の方向……大澤 辰男
8　お知らせ／余韻

God bless America?

西原廉太

9・11同時多発「テロ」事件直後からのアメリカの動きは、どこから見ても尋常の沙汰ではなかたった。そもそも、いかにこの「テロ」が衝撃的な映像をもって伝えられたからと言って、冷静に考えれば、大都市の数ブロックに直接的被害を与えた単発的暴力事件である。しかしながら、「テロ」の翌日には興奮しきったブッシュ大統領が「これは戦争だ」と叫んで以来、すっかりこの事件は「戦争」と化してしまった。本来は警察の管轄案件であるはずが、結局は大国の軍隊が中心となって、一小国に爆弾の雨を降らせ、ついには政権をも崩壊させてしまったことは周知の通りである。

アメリカは、これは「正義の聖戦」であるとした。ブッシュ大統領は、「十字軍」なる言葉も口にしながら、「無限の正義」と自ら名づけた報復戦争に邁進した。「テロリスト」に対して国際法上の戦争を仕掛けるなどは、誰が考えても無茶な話のはずである。しかも、誰が起こした行為なのかも特定されない中、何の証拠も提示できない中で、ビンラディン氏が犯人と名指しされ、アルカイダを叩けとなり、いつの間にかタリバン政権が標的になり、何の関係もないアフガニスタンの民衆たちが空爆されていく。そして次はイラクだ、フィリピンだと言う。この一連の動きのどこに「正義」があると言うのであろうか。

しかしながら正直言って驚いたのは、こうしたアメリカの無法行為に対して、ほとんどのアメリカ国民が圧倒的な支持を与えたという事実である。もちろん一部の良心的少数者は反戦の声を挙げた。けれどもそのような声が彼方に散らされてしまうかのように、アメリカからの映像が伝えるのは「ゴッド・ブレス・アメリカ！」（神の祝福よアメリカにあれ！）の大合唱のみであったと言っても過言ではないであろう。アメリカという国は言うまでもなく多民族多文化国家であり、多様性というものが最大限に尊重されていると言われている国のはずであった。ところが今回の事態に際して、「愛国心」を叫び、「星条旗」を振り回さない者は徹底的に非国民とされる状態が露にされた。その中でアラブ系の人々に対する迫害事件も後を絶たなかったのである。

「ゴッド・ブレス・アメリカ」は第二の国歌と言われる歌である。ブッシュ大統領も頻繁に「神」という言葉を口にした。確かに、アメリカ合衆国大統領は、アメリカという国の牧師であり司祭のようなものかも知れない。なるほど大統領就任式は、まるで長老主義教会の牧師就任式である。建国の経緯から考えても、実際にはアングロサクソン・プロテスタントがアメリカの見えざる国教となっているのも無理からぬことである。しかし近年、アメリカ全体の雰囲気はブッシュ自身の支持母体であるキリスト教保守派、あるいはキリスト教原理主義的傾向に覆われてしまっているように見える。この保守主義、原理主義には「多様性」を保証する理屈はない。むしろ排他主義の台頭を助長し、コミュニティの同質化を迫る。今回の動きは、この危険な性格が一気に表面に露呈した事態であった。

このようなアメリカを、本当に神が祝福されると思っているのであろうか。神にとっても、まったく迷惑な話であるに違いない。神が祝福され、力づけられ、励ましを与えられるのは、むしろアフガニスタンで被爆し、傷つき、家族とも生き別れ、難民となったイスラムの民衆たちであろう。モーセが出会った神とは、「民の苦しみをつぶさに見、追い使う者のゆえに叫ぶ彼らの叫び声を聞き、その痛みを知る」（出エジプト3:7）神であった。そして、私たちのコミュニティを切り結ぶキーワードは、本来、マイノリティ（少数者）であり、ダイヴァシティ（多様性）であり、プルーラリティ（多元性）であるはずである。私たちも、こうした本質的理解にしっかりと立つことができるかどうか。鋭く問われている。

（にしはら・れんた　中部教区司祭・立教大学教員）

はじめのはじめの第一歩

金光敏

2002年が始まり、韓日共催ワールドカップサッカー大会への関心が高まりを見せている。オリンピックよりも大きな国際大会と言われるこのサッカー大会の歴史上、アジア初の開催であり、かつ最初の２カ国共催である。在日朝鮮人３世としては、これを機会に朝鮮半島と日本との関係が発展し、日本社会で暮らす私たち在日同胞が少しでも暮らしやすい社会になればと切に願うばかりである。

私は、民族教育促進協議会という団体で働いている。民族教育促進協議会（以下民促協）は、公立学校に在籍する韓国・朝鮮の子どもたち（国籍は多様）に民族教育の機会を公的に保障し、日本の子どもたちが「韓国・朝鮮」にかかわる事柄を等身大に受けとめられる学校教育をめざして運動を進めている。主要な事業としているのが、「民族学級の設置」および「民族学級の制度保障」である。「民族学級」とは、課外（放課後）などを活用して、韓国・朝鮮の子どもたちが、自らのルーツである朝鮮半島の言葉や文化、そして歴史にふれ学ぶ取り組みのことである。大阪市内でいうと、現在89校の小中学校（全小中学校の20.6%）に開設され、1992年からは「民族クラブ技術指導者招聘事業」という民族学級の受け皿制度が始まっている。また、一昨年からは17名の嘱託身分の民族講師が任用され、2000名近い韓国・朝鮮の子どもたちに不足ながらも民族教育の機会を保障している。

この制度は、マイノリティの子どもたちに、民族的アイデンティティを保障することを目的に行政が人的措置を行った日本で初めてのケースである。単一民族、単一文化社会とされ、国内には少数民族問題が存在しないとしてきた日本政府であったが（ただし、1997年の「アイヌ文化振興法」によってアイヌを少数民族と初めて認めた）、市民生活に密接な役割を果たしている地方自治体が、住民のニーズを捉え、独自のこうした制度を発足させたことは、住民自治や地方分権の推進という側面においても、また、多民族・多文化共生社会を実現して行く上においても、画期的なことであるといえる。

もちろん、この制度とて十分ではない。そのあたりのことは今後触れたいと思う。

日本による朝鮮半島の植民地支配によって、日本での生活を余儀なくされた在日韓国･朝鮮人社会にとって、「日本」という国は決してたやすい国ではない。1945年８月15日の日本の敗戦は、朝鮮半島への植民地支配の終了を意味したが、日本に残らざるを得なかった私たち在日社会にとっては、植民地支配が続いたと言っても過言ではない。戦前と戦後の区分が難しい日本社会にあって、私たちは、戦前と戦後を貫く「朝鮮」、もしくは「朝鮮人」への差別意識に、自分たちが持ち得るエネルギーを消耗して暮らさざるをえなかった。私自身の生い立ちを見てもそう振り返れる。「差別」に消耗した私のエネルギーを、もっとちがう方向に活用することができていたならば、もう少し明るい少年期を過ごせたのではないかと考える。

この連載では、民族教育の制度保障運動に関わる中で見えてきた日本社会の今を検証し、これから何が求められているのかを共に考えてみたいと思います。

（きむ・くぁんみん　民族教育促進協議会事務局長代行）

2000年に50周年をむかえた北鶴橋小学校民族学級　―式典から―

「新しい歴史教科書をつくる会」に教えられたもの

河 棕 文

2001年、韓国民はあの「つくる会」の名に振り回されながら明け暮れたような気がする。まさに「スーパースター」であったかもしれない。誰もが想像もしなかった「9・11事件」が起こるまでは。それが最近は一変してサッカーのことばかりだ。馬の年は既にワールドカップの話題に乗っ取られたかもしれない。

「つくる会」の破壊力は凄まじかった。アフガン戦争で名を得た米軍の新型爆弾よりもずっと。両国の外交ルートは早々とお手上げ状態。1998年の金大中大統領－小渕恵三首相共同宣言は徐々に脳死状態へと。せめての救いは0.04%という採択率の低調であろう。あの8月15日、日韓の政府関係者はこぞって胸をなで下ろしながら大いに安堵したであろう。

「つくる会」は多くのことを我々に教えてくれた。1990年代に築き上げられた日韓友好ムードはそもそも「歴史テロ」を防ぐことは不可能であったことを。第2、第3の「つくる会」による波状攻撃がこれからもあることを。そして、日韓関係のパラダイムは今その再編を迫られていることを。

「慰安婦」問題をきっかけに1990年代は正に「歴史バトル」の10年と記されよう。河野談話－不戦決議－村山談話へと歴史和解の雰囲気がつづき、1998年の10月金大中大統領の訪日の際、日韓パートナーシップ共同宣言が発表された。ところが、「日本丸」の舵取りは逆に右へ右へと傾くばかり。アメリカの援護下での周辺事態法への躍進、国旗・国歌法の成立などは世紀末の不祥事であった。そのショックから醒めないうち、我々はまた「つくる会」騒動を目睹させられた。東アジアにおける21世紀は20世紀と同じく波瀾万丈な幕開けとなったのである。

「つくる会」と教科書問題は、一枚岩とはほど遠い両国の政治的な絆の脆弱さを露にした。世論に押されて強気に出た韓国政府の本音を日本政府は見抜いていたし、文部科学省が再修正に応じないことを韓国政府も承知していた。「つくる会」の復讐宣言は決して負け惜しみからのものではない。0.04%の中身を覗いて見ると・・・。

気になる点は他にもある。あれほど声をあげた韓国の世論が、なぜ最近の自衛隊の歴史的な変貌に対しては沈黙したのか。教科書問題が再武装と改憲の引き金であることは学習済みなのに。次の世代の平和はと自問しながら、望ましい日韓関係のあり方を熟考せずにはいられないこのごろである。

「つくる会」からは大きな教訓を「賜った」。歴史を過去の枠にはめ込んではいけない。よりよい現在や未来を培うために、我々は過去を噛みしめる。その担い手は国や民族にとらわれない自由な「市民」である。あなたはどっちの味方だろうか？

（は・ぢょんむん　ハンシン大学国際学部副教授）

はじめまして。私は韓国のハンシン大学で日本史を教えている河棕文と申します。ウルリムの意味する「響き」のように、韓日市民連帯の大声を叫んでいきたいと思っています。よろしくお願いします。

（こころの相談室）
荒川診療所
精神科・神経内科
〒544-0031 大阪市生野区鶴橋2-18-10 88ビル2階
TEL(06)6741-8000　FAX(06)6741-8001

診療時間

受付時間	月	火	水	木	金	土
AM9:00～PM1:00	○	○	×	○	○	○
PM 4:00～PM7:00	○	○	×	○	○	×

日曜日・祝日は休診です。

本から「在日コリアン」を考える ⑧

高 二 三

地下鉄１号線

キム・ミンギ著（金重明・訳）
定価1800円＋税
新幹社

1987年初春、私はまだ明石書店という出版社にいた。そこへ金重明（キム・ヂュンミョン）がオートバイに乗って訪ねてきた。彼は私が在日韓国学生同盟にいた頃の後輩で、東大を中退し、大阪外大朝鮮語学科（ここも中退だった）へ行き、在日韓国人政治犯救援運動にかかわってきた人だ。

テーブルにつくなり、ポンと一冊の本をおいた。それが、『キム・ミンギ』だった。「朝露」や「工場のともしび」を作ったキム・ミンギ（金敏基）の「キム・ミンギ論」と、キム・ミンギが作曲した全曲の楽譜と歌詞が収められていた。友人の金東秀（キム・トンス）が翻訳をすすめてくれたとのことだった。87年5月に新幹社を始めて、3冊目の本として『キム・ミンギ』を刊行した（いまは残念ながら品切）。

そして、それに合わせて李政美（イ・ヂョンミ）のうたで『キム・ミンギを歌う』というカセット・テープを作った。韓国の出版社へ何度も連絡を入れたが、すべてナシのツブテで、結局は許可を得られないまま、本もテープも作ってしまった。何となく申しわけなく思ったが、良心に恥じない仕事なので自信をもってやった仕事だった。

1年ぐらいがすぎた時、先輩の金容権（キム・ヨングォン）氏からキム・ミンギが日本に来るという情報を得た。中国の帰り、東京に立ち寄るとのことだった。30分くらいしか会えなかったが、想像していた以上に、もの静かで、しっかりした考えの人だった。中国へ行ったのも、南北朝鮮のみならず、あらゆる海外同胞が心を一つに歌える歌をつくりたい、そのために資料（歌）を収集しているとのことだった。これからは、連絡をとり合って、契約にもとづいて仕事をしよう、と誓いあった。

さらに数年がすぎ、キム・ミンギが来日した。学殿（ハクチョン）という劇場をつくり、ミュージカルをやりたいということで、青山劇場など日本の最新の設備がそなわった劇場を見学してまわった。

また、さらに数年がすぎた。詩人の金芝河（キム・ジハ）が日本に来る折、キム・ミンギが同行してきた。キム・ミンギは金芝河の絶大な信頼を得ていた。東京で歓迎公演を行う時、いろいろトラブルがあったが、キム・ミンギを介して誤解を解いて、何とか成功裡に会を終えることができた。

長く、私とキム・ミンギとのことを書いてきた。それは、私がキム・ミンギの生き方や歌にいつも励まされて生きてきたからだ。学ぶことが多い。

キム・ミンギは1951年生まれで、私と同じ歳である。ということは、同時代を生きてきたのであるが、日本とは「月とスッポン」ほどちがう過酷な韓国社会の中で、民衆に希望を与えながら生きてきた彼を、私は尊敬してやまないのである。彼は結果的にそうなっただけで、最初から意図したものではない、と言うけれど……。

『地下鉄１号線』は観る角度によって異なる多重なテーマをもっている。私は「思い」を寄せあっている二人が、その「思い」が強いがゆえにすれちがってしまう、「メガネ」と「ゾウキン」の愛が心に残った。ソウルの娼婦街で生きる底辺の人たちが、絶望の中にありながら、困難な人を励ます温かさに心打たれた。この、人の優しさ、温かさ、愛は、現代の荒廃とした人間関係のありようを鋭くついてやまない。

キム・ミンギは韓国の運動圏からは、すでに仲間ではない、と言われているようである。しかし、彼は、かつてギター一本で「朝露」を歌って学生や民衆を鼓舞したように、ミュージカル「地下鉄１号線」に彼の芸術的才能を集結させて、民衆を鼓舞している。

（こ・いーさむ　新幹社代表）

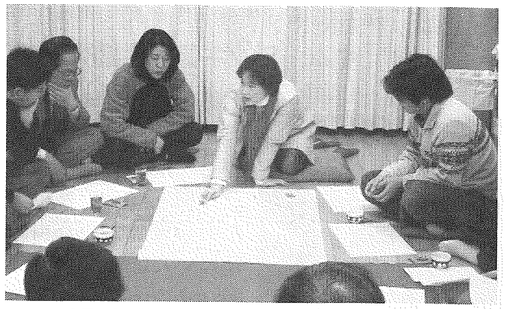
『地下鉄１号線』は
聖公会生野センターで取り扱っています。
TEL 06-6754-4356　FAX 06-6754-4357
e-mail : ikuno.po@nskk.org

「ことばを学ぶ」ということの素晴らしさ

鄭 恵 先

私が、聖公会生野センターの韓国語教室で韓国語を教えることになってから、早くも5年目になります。いま振りかえってみると、単純な留学生活の中で、この韓国語教室は．私にとても大きな存在だったと思います。そして、こういう生活の中にずっと居られるしあわせを、私はあらためて実感しています。韓国での大学入試で日本語学科を選択した当時には、まさかその選択がここまで自分の人生を左右するとは思ってもいなかったのです。そのときから考えると、私の「ことばを学ぶ」という生活はもう15年になります。最初はもっぱら学ぶ立場だったのが、いつのまにか、教える立場にかわって、日本に留学している現在は、日本語を学び韓国語を教えるという贅沢な生活を送っているのです。

「ことばを学ぶ」ということは、その国の文化を学ぶことだという話をよく耳にします。やはり、外国語を勉強していると、その国についてもっと知りたいという欲求が自然に膨らんでくるようです。そして、「ことばを学ぶ」という行為は、自然にその国の文化を学び、その国の人を学ぶことにつながっていくのでしょう。実際、私が韓国で日本語を勉強していたときも、日本文化や日本事情に関する情報不足に、かなり欲求不満を感じていました。もっと生きている日本語がしゃべりたい…生の日本、日本語、日本人に接したい…と常に思っていたのです。その結果、いまの自分の日本での生活があるのだから、私にとって、「ことばを学ぶ」という行為は、いまの自分を支えている土



1月の1回目の授業はユンノリ（朝鮮すごろく）大会

台のようなものです。「ことばを学ぶ」ということから新しい居場所を見つけた人は、たぶん私以外にも大勢いるのでしょう。

今まで、私は「ことばを学ぶ」現場で、色々な人々に出会うことができました。そのたびに、私はその人たちから人生で必要な何かをいつも学んできたような気がします。聖公会生野センターで韓国語を教えている中でも、私は多くの人たちに出会いました。そして、自分が教えているものよりもっと多くのものを常に学んでいます。「ことばを学ぶ」現場は とても楽しいです。教える側、教わる側に関係なく、同じことばに興味を持った人たちが集まって、その国のことばや文化などを学び、理解を深め、各々の世界を広げていきます。そのような生活の中で、ある日ふっと気づいたら、新しい世界への入口が見えてくるのかも知れません。「ことばを学ぶ」ということは、ほんとうに素晴らしいことです。

（ちょん・へそん　聖公会生野センター韓国語教室講師）

パンフ・カタログ・ビラ・書籍等
UNI WORLD PRINTING CENTER
おもしろ まじめの印刷屋です。
株式会社 ユニワールド印刷センター
〒530-0025 大阪・北・扇町・2・6・12 TEL.06-6363-4567 FAX.06-6363-4568
Eメール：aag12000@pop02.odn.ne.jp

変化の方向

大澤　辰男

知的障害者に絵を教えていることを周りの知人たちに話すと「障害者はみんなすばらしい絵を描くのだろう」とたいがいが興味なさげに同じ言葉を返してくる。彼らは自分が返した言葉を本当に信じている訳ではなく、多分どこかで仕入れた知識（ひょっとするとドラマの「裸の大将」のイメージか?）を日常の挨拶の如く返してきたにすぎない。そしてそんな言葉に僕はいつも「それは、幻想です。」と返すことにしている。

障害者の中にも器用な人もいれば不器用な人もいる。器用な人は、器用に描き、不器用な人は不器用に描く。人が絵を描くという事に関しては障害者だろうが健常者だろうが同じだ。

生徒の大半が知的障害を持つ絵画教室の講師になって1年8ヶ月が過ぎた。

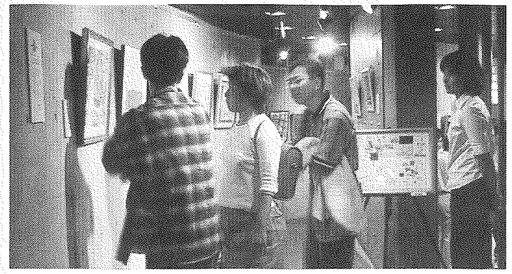
生徒たちが描く絵は正直言って「上手い」「すばらしい」とは言いにくい。時に、生徒の中には思いがけない絵を描いて驚かされることもあるが、全体としてはまだまだである。

生徒たちに僕たち健常者の大人が見て満足出来る絵を描かすことは簡単である。障害を持つ生徒たちは従順だから、「このように描きなさい」とお手本を見せ、繰り返ししつこく指導すれば、僕たちの言った言葉に従い、それなりに僕たちに満足感を与える絵を描くだろう。

でも、はたして、生徒たちに対し僕たちから見て「上手い」「すばらしい」と言われるような一枚の絵を結果として求める意味があるのだろうか？

ゆっくりとゆっくりと生徒たちは変化してゆく。

1年8ヶ月前の生徒たちは、いつも同じような



第2回クリンもだん絵画展
作品を見ること見られることも大切なことです。

絵を、同じ材料を使い、同じ方法で描いていた。まるで同じ道をぐるぐると回っているようだった。でも今は、確かに変化した。それは、自ら変化してゆこうとする意思を持つことが「出来た」「出来つつある」という変化だ。僕たちは生徒たちに一枚の絵を結果として求めるのではなく、このような変化こそ求めなければいけない。「上手い」「すばらしい」絵を描くことなんて決して重要ではなく、変化を続けてゆく事の方が大切なのだ。きっと、変化を続けてゆく途中で「上手い」「すばらしい」絵なんて描けるだろう。

そんな変化に、周りの大人が気付くのはとても難しい。僕たちは細心の注意を払い、絵を描く生徒たちの姿を見つめ続け、画面上での微細な変化を見落とさないようにしなければいけない。それは、まるで根気比べのようで、あまりのゆったりとした変化にこちらが我慢できなくなる時がある。でも、僕たちはあせらずに生徒たちの変化の速度に時間を合わせなければいけない。急がなくても生徒たちにはまだまだたっぷり絵を描く時間があるのだから。

（おおさわ・たつお　聖公会生野センター絵画教室講師）

緑に囲まれたこどもたちの庭
学校法人親愛学園
親愛幼稚園
園長　古賀久幸
近鉄奈良駅より徒歩2分
〒630-8213 奈良市登大路町44
TEL (0742)23-3210 FAX (0742)23-6786
http://www.nskk.org/kyoto/nara/shinai/
—本当に重要なことを見分けられるように—
フィリピ1:10

聖公会生野センター
韓国語教室
毎週火曜日　午後7:00～8:30
入門から上級会話まで
絵画教室
毎週水曜日　午後7:00～8:30
— 2002年4月 新年度受講生募集 —

お知らせ

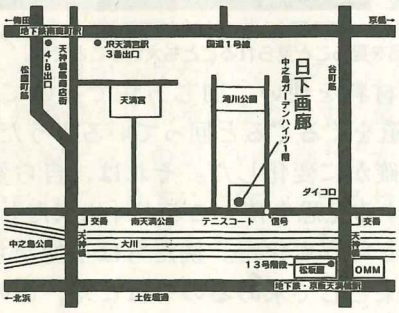
山根由香展

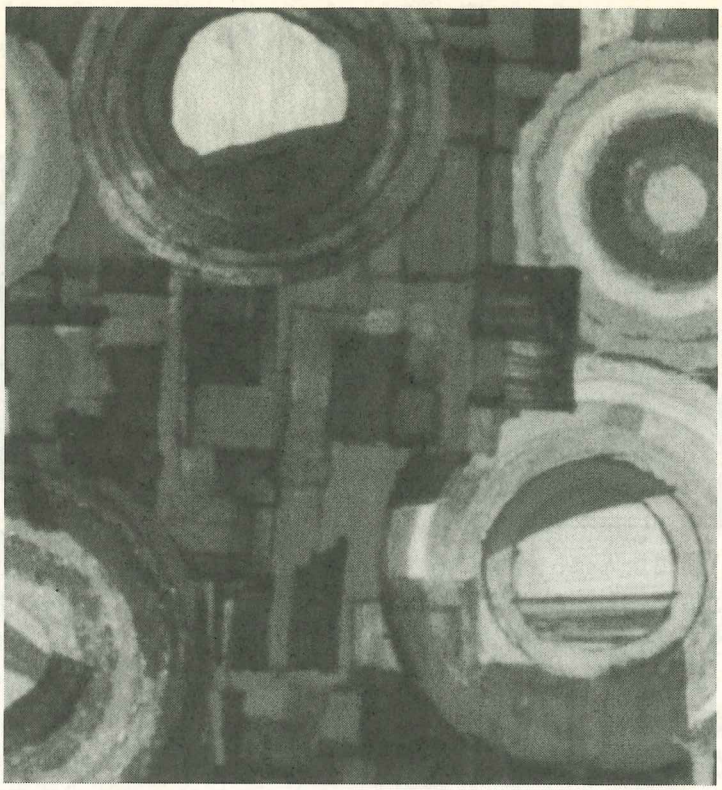
2002年
4月9日(火)
↓
14日(日)

火~金13:00～20:00
土　13:00～18:00
日　12:00～17:00

日下画廊

大阪市北区天満4-1-2 中之島ハイツガーデンIF
地下鉄・京阪天満橋駅北出口13号階段　天満橋北詰左折200m





絵画教室受講生　山根由香さんの個展が実現します。

余韻

◆「自分の弱点を知ることは、償いの第一歩」とは、「キリストのまねび」で有名なトマス・ア・ケンピスの言葉。歴史の中の認めたくない事実に目をつぶるのは、いつまでも自分の損失を償えない人たち。正しい歴史認識を「自虐」と呼ぶ人々の、魂の貧困を寂しく思う。(大) ◆最近気になること・・古代のことまで「韓国」という表現が当たり前かのように。桓武天皇の云々でマスコミで見た。日本から見ると当時のことは「朝鮮」ではないだろうか？「韓国」の表現に裏を感じるのは僕だけだろうか？（ピックァンチャ）◆「良薬口に苦し」という。ウルリムの編集作業をしていて、普段自分では気づかない鈍感な心、隣人の生き様に思いを寄せない冷淡な差別心に、グサリと刺さる文章に出会う。これは、預言者の言葉が与える心の痛み。この痛みをいつまでも大切にしていきたい。(AI) ◆京都教区宣教局社会部に、聖公会生野センターの活動がより多くの方々に理解され支援されるようにと、活動協力委員が置かれている。編集委員会のメンバーに、京都から、また女性のまなざしからと、お声をいただき加わらせていただくことになりました。(中) ◆昨年4月以来、教区の人事異動で聖ガブリエル教会、大阪城南キリスト教会牧師、加えてこひつじ乳児保育園チャプレンを兼任しています。鶴橋、生野に生活し始めて読む「ウルリム」はまた格別の感慨を感じます。(壹) ◆ウルリムのアンケートはがき。どんな思いでウルリムを読んでくださるのか伝わってきます。少しでも思ったこと気づいたことがありましたら、ぜひよろしくおねがいします。(す)

聖公会生野センターへのご支援をお願いします

◇後援会費
年額　1口 3,000円（個人）　1口 10,000円（団体）
・郵便振込00960-0-133429「聖公会生野センター後援会」

◇自由献金・クリスマス献金
・郵便振込 00910-1-321780「聖公会生野センター」
・銀行振込 ＵＦＪ銀行 東大阪支店
普通預金　3711311「聖公会生野センター」

発行所：聖公会生野センター
〒544-0003
大阪市生野区小路東1-17-28
TEL06-6754-4356/FAX06-6754-4357
E-mail:ikuno.po@nskk.org
http://www.nskk.org/province/ikuno
発行人：木　村　幸　夫
編集人：大　橋　　襄

ウルリムは古紙100%の再生紙を使用しています。